

文化・芸術



「ton paris」から 「サン・フェルディナン広場」

1930、33年、水彩、インク・紙
22・27cm×30・27cm

茂田井武 (1908〜56年)

1930年、茂田井武は22歳。旅費を稼ぎながら大阪から福岡、京城を経由してハルビンへ渡り、シベリア鉄道でパリに降り立ちました。モンパルナス近くの15区のデュトール街の古いアパートに下宿し、17区アルヌ地区にあるデパルカール通りに面した日本人俱樂部で、皿洗いや給仕をしながら暮らします。

ユトリロやキスリング、サッキンを好んだと伝わりますが、彼が題材としたのは、華やかなモンパルナスやモンマルトルではなく、パリ下町の庶民の暮らしでした。サン・フェルディナン広場を起点にしたわずか200メートルほどの生活圏で、日々の喜びや感傷、記憶や印象を小さなスケッチブックに丹念に重ね留めました。本作の見開きにちりばめられたフランス語の単語群の多くは、画帖「ton paris」に登場します。

(小此木)

《名画の扉》

大川美術館企画展
「没後70年記念 茂田井武「ton paris」とパリの画家たち」から